八幡製鐵所は漸く作業を開始したり

職工、職夫、人夫等一萬二千名の入所

罷工氣分尚ほ容易に去らず

時々喊聲を揚げ不穩の狀あり

前後二晝夜に亙りて殆ど工場閉鎖の狀態に陷り九日の定期就業も如何ならんと氣遣はれたる八幡製鐵所も漸くにして九日午前六時に至り職工九千名、職夫二千五百十七名、受負人夫三百八十六名合計一萬二千名近くの勞働者入所し構内七十の全工場は大體に於て復舊平常の狀態に就かんとす（八幡電話）

二工場職工集團

警戒巡査の手で鎭撫

腫物に觸るやうな感

各工場内を通じて機關機械の運轉は開始され轟々たる響きの聞ゆるとともに五百の煙突よりも亦漸次に平常の如く黑煙を吐かんとしつつあるも職工側にありては兩三日來の所謂罷工氣分又は怠業氣分全く消滅せしといふにあらずして、何れかと言へば是等の惰勢に捉はれて一種名狀し難き不穩の空氣は漂ひ居れり作業開始後約一時間を經たる午前七時頃又もや平鋼工場、鍛冶工場の二箇所に就業せる職工數十名は寒夜に二三時間の假睡も取れず疲勞の極に達し居りて不平を抱く者もありて中には差別撤廢を叫べるがありと、尚ほ是等警戒者に對しては製鐵所公餘倶樂部より炊出しをなし一食分千二百個の辨當を作り居れりといふ（八幡電話）

今後の警戒如何

『長官へは就業狀態を電報で』

と長官の歸任を知らぬ顔に語る

製鐵所中川次長

中川製鐵所次長は罷工勃發以來晝夜極めて多忙の時間を割き九日は稍沈着きたる態度にて『實に今回は世間を騷がして濟ませぬでしたが然し今九日の朝から豫期の通り全工場の作業を開始しました、さうして勞働者は受持の各工場に就業して居ります、無論今日以後は以前の如く作業する事を得ると信じます、白仁長官へは生産狀態復舊の緒に就きました事は未だ電報して居りませぬが今九日正午電報でお知らせする心算りでした、今後の警戒の事を憲兵隊及び警察署へ願つて置きました、其警戒に就ては目下當局と何にも諮つて居りまぬせが何れ今明兩日の經過と狀態を見た上でなければ依然警官の派遣を願ふか或は撤退をして貰ふか判りませぬ云々』（八幡電話）

白仁長官歸任す

製鐵所事件につき白仁長官は頗る事態を樂觀し新聞電報は爲にする者の報道なりなど稱し居たるが要求に對して長官の回答は一般職工に滿足を與へざるものゝ如く形勢再び險惡となれるより急遽七日午後七時東京驛發列車にて密に歸任せり（東京電話）

狀況視察

宮田陸軍兵器工廠長、横山大阪陸軍兵器工廠提理は朝鮮よりの歸途九日朝八幡製鐵所構内を視察し具さに今回の罷工の狀態を視察したるが横須賀海軍工廠長山中中將も八日午後四時同視察したり（八幡電話）